



児童が生き生きと活動する学習指導の工夫 —「地域探検活動」を通して—

南風原町立翔南小学校教諭 仲 本 ゆ か り

1 研究のテーマについて

児童の生活の場である地域探検活動を通し、児童が生き生きと活動していく学習指導の工夫を図る。「地域探検活動」では、校区の地域素材である人々や自然、文化と直接触れる中で地域のよさや自分の生活とのかかわりに気付かせたい。

児童が、地域と直接かかわり、新しい発見や気づきを通して、「自分の住んでいるところはこんないい場所・もの・ことがある。」と地域に親しみをもち、生き生きと活動することを期待したい。

2 研究の特徴

単元構成と支援の工夫

児童の思いや願いを生かす単元構成の工夫として探検活動3回、発表会2回を実施し、児童の思いや願いを生かす支援の工夫を行った。

表現活動の工夫

「支部自慢」の調べて分かったことがみんなに伝わるように、それぞれの思いや内容にあった表現方法で発表する活動を支援した。

3 指導の実際



探検2 かぼちゃ作り名人とのかかわり



支部自慢（かすり）を紙芝居で発表

4 結 論

児童の思いや願いを生かす単元構成と支援の工夫や発表場面における表現活動を工夫することによって、児童は楽しく意欲的に活動し、生き生きとした姿を見ることができた。「自分の住んでいるところが好き（喜屋武の綱引きがあるから）」「かぼちゃを育ててみたい」と、地域に親しみをもち児童が増えた。

児童が生き生きと活動する学習指導の工夫 — 「地域探検活動」を通して —

南風原町立翔南小学校教諭 仲 本 ゆ か り

I テーマ設定の理由

学習指導要領より	生活科の役割 生活科は、地域と児童の生活に根ざす教科である。学習の対象や場は、児童の生活圏にある人・社会・自然で、児童がそれらを自分とのかかわりでとらえることを大切にしている。今日、高度情報化、少子高齢化、核家族化などの進展に伴う社会変化により、児童を取り巻く環境も変化してきた。こうした社会の中で、児童が戸外で遊んだり動植物に触れたりする機会が少なくなっている状況が見られ、人とかかわりや地域とかかわりが希薄化しているという問題点も挙げられている。そこで、身近な人や社会、自然と直接かかわる活動を実質とした生活科の役割は大きいものである。
豊富な地域教材	地域の特徴と学級の実態 本校児童の生活圏である南風原町は、「かぼちゃとかすりの里」と呼ばれ自然と文化の生きづく田園都市として栄えている。校区には、伝統的な産業のかすり工場、へちまやかぼちゃ畑、公園計画が進められ陸上競技場のある黄金森、そして、けんか綱で有名な喜屋武支部の綱引きなど、地域教材になりうる素材が豊富にある。本学級の実態調査から、植物や生き物・店などには関心がある反面、公共施設や伝統行事、文化などにはあまりかかわっていない現状が見られる。また、祖父母との同居は1割程度で、核家族共働きの家庭が多い。
核家族共働きの家庭多い	これまでの課題 これまでの生活科の授業をふり返ってみると、活動中心の授業展開が多く、児童は「～が楽しかった」と単発的な感想だけにとどまり、「もっとやってみたい・調べてみたい」という意欲的な活動にはつなげられなかった。それは、児童理解が不十分で、一人一人の思いや願いにあった適切な支援ができなかったことと、地域素材の教材研究が十分でなく、適切な教材を適宜に提供することができなかったことに起因していると考えられる。また、活動や体験を通して思いや気づきをまとめさせてきたが、ワークシートに記入する画一的な表現方法がほとんどであり、多様な表現をさせる手だてや工夫が十分とはいえなかった。
活動中心と画一的な表現方法	本研究において 本研究では、児童の生活の場である地域探検活動を通し、児童が生き生きと活動していく学習指導の工夫を図りたい。「地域探検活動」では、校区の地域素材である人々や自然、文化と直接触れる中で、地域のよさや自分の生活とかかわりに気付かせたい。 そこで、授業では支部ごとにグループを作り、自分達の支部について自慢できるものや誇れるものに直接触れ地域の方から話を聞いたり調べたりする活動を行う。分かったことを発表する活動の中で新たな疑問を出したり、それを解決するため、繰り返し地域とかかわらせたりする単元構成の工夫をしていきたい。児童が、地域と直接かかわり、新しい発見や気づきを通して、「自分の住んでいるところはこんないい場所・もの・ことがある。」と地域に親しみをもち、生き生きと活動することを期待したい。また、自分達の「地域自慢」を知らせるための表現活動を行い、紹介し交流することで自慢を共有する。その中で、新たな発見が生まれ、自分の思いや気づきを表現する活動を楽しみながら、生き生きと活
地域と繰り返しかわる	
単元構成の工夫	
表現活動の工夫	

動する学習指導の工夫を図りたい。

このように、校区の地域素材を活用した探検活動を通して学習指導の工夫を行えば、児童が生き生きと活動するであろうと考え、本テーマを設定した。

Ⅱ 研究仮説と検証計画

1 研究仮説

地域探検活動において、次のような手だてをすることで、児童が生き生きと活動するであろう。

- (1) 児童の思いや願いを生かす単元構成と支援の工夫
- (2) 発表場面における表現活動の工夫

2 検証計画

対象児童：2学年 30名				
教科名・単元名：生活科「地域探検活動（翔南たんけんたい）」				
	場 面	視 点	観 点	方 法
1	単元全過程	単元構成 と支 援	意欲的に取り組み気付きを深めるのに有効であったか。	学習活動における児童の発表・ワークシート・自己評価から変容を検証する。
2	深める段階	表現活動		
3	児童の思いや願いを生かす単元構成と支援の工夫や発表場面における表現活動を工夫することは、児童が生き生きと活動するのに有効であったか。			上の1、2の結果や単元前後のアンケートから検証する。
《単元前後のアンケート》			《自己評価》	
(1) 実施時期：単元前（5月）、単元後（7月）			(1)実施時期：小単元終了後	
(2) 対象：本学級児童（30人）			(2)対象：本学級児童（30人）	
(3) 内容：生活科・探検活動に関する意識調査（6項目）				

Ⅲ 研究内容

1 生き生きと活動する学習指導の工夫について

(1) 生き生きと活動するとは

意欲的に取り組む姿

生活科の学習において、児童は「驚く、感動する、発見する、不思議に思う、わかる、できることなどが実感できる活動」に出会うことで生き生きする。「生き生き」とは、児童が感動や喜びに基づいて目的意識をもち、目を輝かせて意欲的に取り組もうとする姿である。そして、「生き生きと活動する」とは、児童一人一人が思いや願いをもち、それを達成するために自分で考えて意欲的に働きかけ、発見したり気付いたりしながら、具体的な活動と表現活動を繰り返すことである。その過程において新たに気付き、その満足感や成就感からさらに思いや願いをもつと考える。そこで、「生き生きと活動する児童」とは、下記のように捉え、本研究の目指す児童像とし迫ることとした。

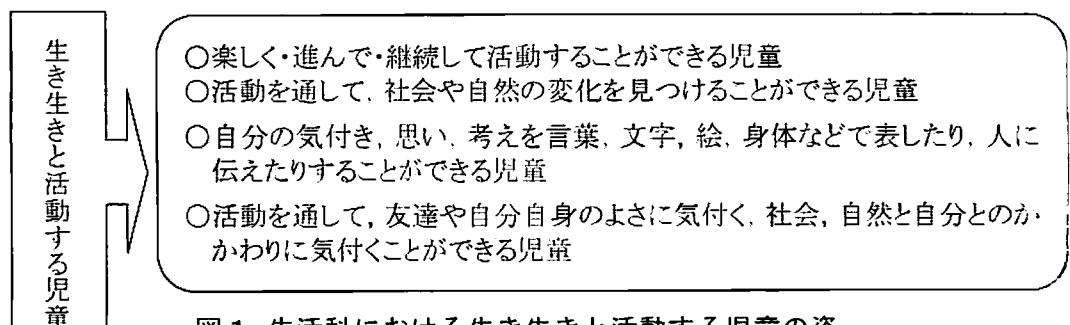


図1 生活科における生き生きと活動する児童の姿

思いや願いを
育む支援

(2) 学習指導の工夫

児童が自らの興味・関心を発揮して、活動や体験することを大切にする生活科の学習にあたっては、児童の活動への思いや願いを育み、意欲や主体性を高めるようにすることが重要となる。そのためには、事前に児童の興味・関心の実態を確かめるとともに、地域の人、社会、自然とのかかわらせ方を考え、児童の意欲や主体性を引き出す環境構成、活動への誘いかけを工夫しなくてはならない。

また、教師が、児童の対象とやりとりしている姿をとらえ、適切な支援を行うことにより、活動の連続性が生まれ、児童の思いや願いに沿った学習活動を展開することができる。

生き生きと活動する生活科の学習は、児童の思いや願いが学習の出発点にならなければいけない。そこで、児童が思いや願いをもち、その実現へ向けて自ら主体的に活動する学習指導の工夫が求められる。楽しいのはもちろんのこと、自分の活動に対して満足感や成就感をもつことができるように、思いや願いが生かされ、児童が「楽しい」と感じ、「生き生きと活動する」姿を見ることができるのである。

本研究では、児童が生き生きと活動する学習指導の工夫として、「地域探検活動」を通して単元構成や支援において工夫を図っていく。

(3) 思いや願いを生かす単元構成の工夫

自分達が探検してみたいところを児童が選び、そこを探検した様子をいろいろな方法で表現し、探検したことをより明確化させることが、単元構成上の工夫のポイントとなる。以下、単元構成上の工夫のポイントと本研究での取り組みをまとめた。

① 地域の実態および児童の生活圏を把握して探検場所を選定する。

本校校区は、5つの支部から成り立ち、一人一人の児童の生活圏はごく一部である。そこで、探検場所を児童の住み慣れた支部とした。

② 児童一人一人の探検目的を明確にする。

自分の住み慣れた支部を探検する目的を明確にするために、「自分の支部の自慢を見つけよう」という活動を取り入れた。

③ 探検活動を意識化し、地域へのかかわりを深める。

支部の自慢を友達や保護者、地域の方に、いろいろな表現方法（紙芝居・クイズなど）で知らせる表現活動を取り入れた。発表会を2回設定し、ミニ自慢大会でお互いの「よさや改善点」を確かめさせる。調べ足りないことや新たな疑問を基に詳しく調べ直す。これらの活動により、探検する→表現する→詳しく探検し直す→分かりやすく伝えようと表現活動を工夫するなど、意欲的な活動をねらい、地域へのかかわりを深めるようにした。

④ 自慢大会をすることにより、生活圏の広がりを期待する。

他の支部自慢を知ることにより、「喜屋武の綱引きをやってみたい。」「かぼちやを育ててみたい。」という児童の思いや願いが生まれ新たな活動への広がりを期待する。

(4) 思いや願いを生かす支援について

生活科は、「教え込まないで、支援・援助と助言する」ことが基本である。大切にしたいことは、児童に興味・関心・意欲をもたせるようにすることである。教師はただ単に、児童にかかわっていくのではなく、一人一人の児童の活動や行動を観察し、思いや願いをしっかりと捉えながら、支援をしていかなければならない。また、児童が自ら進んで活動できるように、教師は学習環境を整えたり、児童の主体的な活動を支えることが基本となる。そこで、児童が活動するときは、共感的に理解し温かく・見守る、励ます、促す、支えるという姿勢をもつことが大切である。具体的な支援（直接的な支援）の分類と間接的な支援（探検活動における環境構成）を表1、2に示す。

単元構成の工夫→探検活動
3回、発表会
2回実施

思いや願いを
捉え支援

- ① 直接的な支援（児童の思いや願いを把握し、活動が連続発展できるように教師が直接働きかける支援）

表 1 具体的支援（直接的な支援）の例

内容	教師の姿	支援後の児童の姿
見守る	児童のよさや可能性を信じ、自ら伸びていこうとする姿を見守る。	児童は自ら主体的に活動していく。
励ます	児童が自分なりのよさや可能性を発揮し、主体的に活動できるよう力づけ、励ます。	活動が消極的になったり迷ったりしたとき、児童は再び意欲をもって主体的に活動始める。
認める 感心する	児童の思いや願いをとらえ、それを認め、活動を賞賛し、価値づける（見取り・微笑み・うなずく）。	安心感や満足感を味わい、自信をもって主体的に活動していく。
受け 入れる	児童のありのままを受け入れる。	教師との信頼関係をつくり、心を安定させる。そうして、自信をもって主体的に活動していく。
促す	自分なりのよさや可能性を発揮して主体的に活動できるよう、その機会を与える。児童の思いや願いをとらえ、その表現のためにいろいろな刺激を与え、気づかせ、活動を促す。	気づきを深め、活動を発展させていく。
伝える 広げる	対象や教材、活動の情報が必要に応じて、児童の実態に合わせて伝える。	自分の活動や行動の参考にする。
引き出す	うまく言い出せないようなことや児童の思いを聞き出すようにしたり、児童が話しやすいような場の設定や雰囲気を作り表現できるようにする。	心の中の思いを話すことができる。

- ② 間接的な支援（児童が思いや願いをもちながら、環境〈教材〉とのかかわりを深める働きかけ〈環境構成〉）

本研究では、単元全体の学習過程を〈出会う〉〈働きかける〉〈深める〉段階に分けて捉え、探検活動における環境構成の工夫を表2にまとめた。

表 2 探検活動における環境構成

学習過程	環 境 構 成
出会う	○教材と出合わせる場の工夫
働きかける	○児童が直接かかわることができる場の設定 ○多様な活動が展開できる場の設定 ○安全に活動するための指導体制を組む（学年合同、保護者〈学習ボランティア〉） ○地域の方の授業参画 ○活動を振り返ることができるようにするために、教室に活動の様子、経過を掲示する（ワークシート・写真・実物） ○図書資料の準備 ○合科・関連的指導を行うことにより生まれる時間的ゆとり
深める	○交流ができる場の設定 ○表現活動の場を設定 ○保護者や地域の方の発表会への参加

(5) 学習過程における支援の工夫

児童の主体的な学習を支援し、思いや願いを生かした活動を展開していくために、以下のような学習過程における支援の工夫を行う（表3）。

表 3 学習過程における支援の工夫

過程	段 階 の 特 徴	支 援 の 工 夫
出 会 う	様々な対象に出会ったことによって感じる素直な喜びや驚き、不思議さや疑問・願いを、具体的な活動や体験を通して導き出す。これからの学習への意欲や期待感を高める。	《支部の自慢を見つけよう》 ・地域の写真を見せ場所当てクイズをしたり、自分の見つけた支部の自慢を発表したりする。
	具体的な活動や体験などを通して、児童と対象とのかかわりが一層深まり、自然や社会、自分自身への「気	《探検1》 ・視点となる（場所）ポイントで説明する。 ・学年合同、支部別になり十分な時間を確保する。 ・学習ボランティアを活用し小グループを作り配置する。個々の児童

働きかける	付き」が明らかになる。児童は活動する中で、様々な発見をし、友達と学び合いながら活動を広げ深めていく。	の思いや願いに対応する。 《探検2》 ・具体的ななかかわりをもたせる（インタビュー、触れ合いなど）。 ・活動が充実するよう時間を確保する。 ・地域人材を活用し、個々の児童の思いや願いに対応する（事前に目的や内容を伝え協力依頼をしておく）。 《ミニ自慢大会》 ・よさを認め、児童が満足感を得るとともに意欲をもてるようにする。 ・お互いのよさや改善点を確かめさせる（話型を提示し、ワークシートを工夫する）。 《探検3》 ・もっと詳しく調べたりまとめたりして、繰り返しの活動をさせる。 ・地域の方を各グループに招待し気づきを深め充実した活動をさせる。
深める	自分の思いや願いを実現することにより、満足感や成就感を味わい、自分の生活に生かす。	《翔南自慢大会》 ・調べたこと分かったことがみんなに伝わるように、それぞれの内容にあった表現方法を工夫させる（参考作品や参考例を見せる。） ・発表の練習やリハーサルの時間を十分にとる。 ・地域の方や保護者などに自慢大会に参加してもらいこれまでの取り組みを賞賛し、今後の活動への意欲を高める。

2 地域探検活動について

(1) 生活科と探検活動

行動自体が
目的やねらい

生活科で行われる探検活動は、実地に探り調べて（五感に働きかけて）いく児童の行動自体が目的やねらいとなる。行動する中で様々な社会事象、ひと、もの、ことがらにかかわりその中で自分の求める事象を自分なりに認識していく。さらに探検する活動の中で様々な事象とのかかわりが次の諸活動の芽生えとなり、発展していく。そこで本研究では、「地域探検活動」を通して、地域の人々や自然、文化と繰り返しのかかわらせる単元構成と支援の工夫をすることで、児童が地域に親しみを持ち、生き生きと活動することを期待したい。

(2) 地域探検活動のよさ・意義

地域に親しみ、
愛着を深める

生活科の内容(3)では、「自分たちの生活は地域の人々や様々な場所とかかわっていることが分かり、それらに親しみを持ち、人々と適切に接することや安全に生活することができるようにする。」ということを目指している。地域探検活動は、地域の人々や様々な場所とかかわる中で、児童の日常の生活に影響を及ぼし、児童の生活を豊かに広げるものとなる。そして、さらに活動を発展させて、自分たちで発見したよさを地域の人々に知らせたり、地域とのかかわりを一層深めたり広げたりしていくことができる。

また、この活動をきっかけとして、地域の人々や様々な場所に対するそれぞれの児童の親しみの気持ちや、愛着をさらに深めていくことが期待できる。

3 生活科における表現活動

意識化→より
価値のある活
動へ

生活科では、具体的な体験を通して、自分と身近な社会や自然とかかわったり、自分自身や自分の生活について考えたりする過程で、その楽しさを味わい、それを言葉、絵、動作、劇化などによる手段や方法で表現できるようにすることをねらいとしている。

つまり、言葉、絵、動作、劇化等の表現技能を磨くことではなく、「楽しい」という「内的なもの」を表現できるようになることがねらいである。「内的なもの」とは、楽しさ・喜び、その他さまざまな感動・心情等であり、それをどうとらえているかを、表現という手段を通して抽象化し、その子なりに意識化し、より価値のある活動・体験を生み出していくことにつながる。

多様な
表現方法

(1) 表現方法

低学年の発達段階に適した表現方法として次のようなもの（表4）が考えられる。

表4 表現方法と種類

言葉	発表、紹介、紙芝居、クイズ、かるた、台詞、歌、質問、インタビューなど
文字・文章	カード、作文、手紙、吹き出し、絵本、日記、新聞、紙芝居、パンフレットなど
絵・図	紙芝居、絵地図、絵カード、絵本、ポスター、カレンダーなど
動作・劇	ハープサート、人形劇、劇、身体表現、歌踊りなど

(2) 留意点

1・2年生の発達性を加味した表現活動では、次のようなことを考慮していく必要がある。

- ① 教師が児童の表現したいと思う内的なものを引き出し、自由に表現していけるような雰囲気を作ることが大切である。
- ② 児童の特性や発表内容を考慮し、言葉（音声・文字）、絵、動作、劇化等の方法で表現させると、内なるものが効果的に表現できるかを見極め支援していく必要がある。
- ③ 児童は伝える相手（表現対象）を意識したり伝える目的（表現目的）意識を明確にしたりすると表現意欲が高まる。それらの意識を具体的にもたせることが有効である。

(3) 主な表現方法の特徴

表現方法を選択するときは、児童の本音がそのまま表出でき、自分なりの個性的な表現ができるような環境作りを心がけたい。本研究の発表場面における表現活動で取り組んだ表現方法の特徴をまとめてみた（表5）。

表5 表現方法の特徴

紙芝居	・児童の思いや願いが盛り込まれる。 ・できるだけ児童の自由な発想に任せる。 ・過程を重視する。
新聞	・作るのが簡単。絵やカットを好きな所に好きなだけ、楽しみながら活動できる。 ・お互いの意思を反映させる過程で仲間作りができる。 ・自分及び自分以外のものに関心をもち、よく見る、かかわるなど社会性が育つ。 ・記録性があり、1年間の活動記録になる。（2年生の学習でもっとも効果的なのは、地域とのかかわりに関する単元・お祭りなどの単元）
ハープサート	・割り箸と画用紙で手軽にできる。 ・作る喜びと演じる楽しさが共存。 ・変化のあるものを表現しやすい。（例、空に浮かぶ雲の様子・自然の様子） ・大きさ・形・材料を工夫できる。
手紙	・自分の思いや用件を相手に伝えることができる。 ・自分の生活や自分を振り返り、見つめ直し、考えを深めていくことができる。 ・自分の取り柄や良さ、自分らしさを発揮し、自己存在感や有効性を見出すことができる。 ・相手との心の交流を図ることができる。
クイズ	・よさ（児童同士の交流を図ることができる。おもしろさ楽しさを味わうことができる。自分の知っていることを発表したり自慢したりすることができる。みんなで最後まで頑張ろうする気持ちを高めることができる。） ・行う場面（活動への意欲や知的好奇心を高めるために、対象の出会い方の一つとして単元の始めに行う。各活動後に気付いたことや発見したことを紹介したり発表したりするために行う。学習のまとめとして単元の終わりに「QC大会」などの形式で行う。）
絵本	・活動の過程やまとめの段階でしばしば用いられる。 ・活動の跡を振り返り、絵本の中の登場人物に託してその思いや願いを表現する。 ・長い活動の過程や活動の区切りで振り返ったり、広がりをもった活動をまとめる時の人気の方法である。 ・2年生で取り入れやすい単元（町探検のまとめ、動植物飼育・栽培活動のまとめ、誕生から現在までの自分を振り返る活動） ・絵本作りに適している活動（内容に変化がありストーリー性があるもの、話の内容のイメージがはっきりしており絵に表しやすいもの、ヒントになるような資料があるもの）
図絵	・校区地図をベースに公共施設を加えたり、通学路を明示したりして記入しやすくしておき、イラストや写真も加えると親しみやすいものになる。
劇化	・楽しく自由な表現活動の中で、心を開き、イメージをふくらませ、言語などの能力を高めていく。 ・児童の「こうなったらいいのに」という思いや願いの実現、対象とのかかわりを深め、その子なりの感じ方を伸ばすことにつながる。 ・児童一人一人の発想のよさを見取り、励ましていくことが必要である。

IV 授業実践

1 単元名 「翔南たんけんたい」

2 単元について

(1) 教材観（省略）

(2) 児童観（省略）

本学級の児童は、植物や生き物・店などには関心があるが、支部の自慢となるような施設や行事、文化などにはあまりかかわっていない児童が多い。また、「支部の自慢」として虫のいる場所や公園をあげる児童が多かった。そして、「自分の住んでいるところが好き」と100%の児童が答えているが、その理由として「近くに公園があるから」「友達・祖父母の家が近いから」という理由だった。

生活科の中で「探検活動」は好きな学習のトップを占め、人とかかわりやものやことと触れ合うことができる直接体験の楽しさを十分味わっているようである。今回は、校外での探検活動が初めてということもあり、どの児童も「〇〇へ行ってみたい」と探検活動に期待を寄せている。

(3) 指導観

地域の人々や施設、自然、文化に繰り返しかかわらせる単元構成の工夫を行い、地域に親しみ、生き生きと活動する児童を育てたい。

「支部の自慢大会をしよう」と支部ごとにグループを作り、支部の自慢に直接触れたり話を聞いたりして、地域の人々とかかわる活動や体験をさせる。探検を1回にとどまらず、2回3回設定し、児童の思いや願いを広げ、深めることでより教材の価値に迫り、探検活動の質を高めていきたい。そして、「ミニ自慢大会」をもち、自分たちの活動を振り返らせ、もう一度確かめさせる活動を行う。すなわち、児童同士活動・体験で気付いたことや発見したことを発表し合い、発表内容について話し合う。次に、お互いのよさ確かめ、改善点や新たな疑問、興味などを基に3回目の探検活動を行うことにした。その後、新たな気付きや分かったことを、発表の仕方を工夫して本学級児童以外の人にも発表を聞いてもらうことにした。

発表する場面において、表現方法を工夫させ児童の思いや願いを表現させていきたい。

3 単元の目標

(1) 単元の目標

- ① 地域の人々や施設・自然・文化に関心をもち、地域に進んでかかわることができる。（関・意・態）
- ② 地域の人々や施設・自然・文化とかかわりを通して、発見したこと、調べて分かったことを自分なりに表現することができる。（思考・表現）
- ③ 地域のよさ自分や友達のよさに気付くことができる。（気付き）

(2) 観点別評価規準

生活への 関心・意欲・態度	活動や体験についての 思考・表現	身近な環境や自分についての 気付き
地域に関心をもち、進んで探検しようとしている。	探検して発見したこと分かったことを工夫してまとめ、表現することができる。	地域には自慢できるものがあり、それを支えてくれる人や自分たちの生活のかかわりに気付いている。

4 活動計画と評価計画

(1) 活動計画 全27時間 (生活21時間 国語2時間 学活2時間 図工2時間)

時	児童の意識の流れ	活動の流れ	・活動内容	◎思いや願い生かす支援◎支援★評価	仮説検証
出会う (2～18時) 働きかける (3～18時)	1	いえのちかくのビニールハウスにマンゴーの木があるよ	しぶのじまんを見つけよう (2)	◎地域の写真を見せたり、自分の見つけた支部の自慢を発表させたりすることで探検への意欲が高まるようにする。 ★行ったことのある場所や体験を思い出して紹介することができる。(思考・表現) ノート・発表	仮説(1)ー② ◎教師の支援
	2		・地域にある自然や店、施設などの写真を見て、場所当てクイズをする。① ・自分の住んでいる支部の自慢(宝物・秘密)を発表する。②	◎支部の自慢が見つけれられるように言葉かけをする	
	3	こうみんかんにいってみたい	たんけん1のけいかくをたてよう (特活1)	○探検する視点(一つしかないもの、宝物、すごいもの)をしっかりとらえさせる。(自慢する自然・施設・人々) ◎視点となるポイントで説明する。 ○安全面への配慮をする。(保護者への協力願い) ★いろいろな自慢を発見することができる。(気付き) ノート (関・意・態) ワークシート	仮説(1)ー①② ■単元構成の工夫 ◎教師の支援
	4	はたけがいっぱいある	たんけんに行こう1 (3)		
	5		■学年合同で支部別に探検をする①②③(時間を十分取る)		
	6	石のシーサーをはじめて見たよ	・支部で自慢できるものを見つける。 <u>支部の自慢(例)</u> 本部: かすり、ストレリチア、本部公園 喜屋武: 綱引き、壕、ゴーヤー 照屋: 石獅子、マンゴー、ストレリチア 山川: かぼちゃ、へちま、せせらぎ公園 神里: 太陽の町(福祉施設)、ゴーヤー、エイサー		
	7	しょうなん校くには、たくさんじまんできるものがあるんだね	たんけん絵地図をつくろう (図工2)	○協力してまとめことができるよう支援する。 ◎ミニカードに書かせ、支部の自慢を絵地図にはる。	仮説(1)ー② ◎教師の支援
	8	ぼくたちのグループは、きやんのつなひきをしらべよう	・支部の自慢をまとめる。① ・自慢を発表し、絵地図にまとめる。②		
	9	お母さんもじまんにしていたころについてしらべたい	たんけん2のけいかくをたてよう (2) (特活①国語①)	○具体的に聞かれるものや人を選ばせる。 ◎質問の視点【①いつ②だれが③どんなことを(何を)④どのようにして⑤なぜ】を提示して、自分たちの自慢について課題(質問)を考えさせる。 ○例を示して、一人一人が考えられるように支援する。	仮説(1)ー② ◎教師の支援
	10	「かぼちゃはいつしゅうかくするのですか。」うまく聞けるかな	・いくつかの自慢の中から詳しく調べたいことを一つ決め、知りたいこと調べたいことを考える。(特活①) 本部支部: Aかすり「一番難しいことは何か」 B本部公園「いつできたのか」 喜屋武支部: A綱引き「どのようにして綱を引くのか」 B壕「誰が作ったのか」 照屋支部: 石獅子「なぜ石獅子が作られたか」 山川支部: かぼちゃ「どれくらい(数)とれるか」 神里支部: 太陽の町「どんな仕事をしているか」 ・挨拶・インタビューの仕方を話し合い、練習する。(国語①) (実演して見せ、インタビューするとき大切なことを出させる。参考ビデオを見せる。実際にやってみる・練習してみる。)	◎話を聞くときのマナーや態度、質問の仕方を確認し、教師を相手にグループごとに練習させる。	仮説(1)ー② ◎教師の支援
	11		たんけんに行こう2 (3)	◎探検するところには事前に目的や内容を伝え、協力依頼しておく。 ○安全面への配慮を保護者にお願いする。 ○具体的ななかかわりをもたせ	仮説(1)ー①② ■単元構成の工夫 ◎教師の支援
	12		■学年合同で行い、時間を十分取る。 ・探検場所でのいろいろな体験や活動をする(話を聞く、質問する、メモする、		

働きかける (3~18時)	どんなふう に作るのか な わかったこ とはつけん したことを 教えてあげ よう だいじなわ けがあった んだね どんなふう につかうの かな	写真を撮る、実物を見る触る)。①②③ ・グループで協力して探検する。 本部支部：Aかすり（かすり会館） B本部公園（役場の人） 岸屋武支部：A綱引き（区長さん） B壕（文化センター） 照屋支部：石獅子（区長さん） 山川支部：かぼちゃ（野菜作り名人町議 の神里さん） 神里支部：太陽の町（呉屋さん） ミニじまん大会のじゅんぴをしよう (2) ・ミニ自慢大会の計画を立てる。① ・グループで協力してまとめ、発表の準備をする。② ■ミニじまん大会をしよう (2) ミニ自慢大会をする。①② (お互いよさ、改善点を確かめる) 内容を見る視点 ①いつ ②だれが ③どんなことを (何 を) ④どのようにして ⑤なぜ	る (インタビュー・触れ合 い)。 ○保護者を各グループに配置 し、探検の時間を十分に確 保する。 ★地域や人々の様子に気付く。 (気付き) ワークシート・自己評価	
13 14		○めあてを知らせ、主体的に 取り組めるように支援する。 ○それぞれの自慢の内容をま とめさせる。 ○一人一人分かったことを書 かせる。 ★ミニ自慢大会の準備や練習 ができる。(関・意・態) 行動観察・自己評価 ◎よさを認め、児童が満足感 を得るとともに、より意欲 がもてるようにする。 ○発表の仕方や内容について 互いのよさや改善点を確か めさせる。(話形を提示、ワ ークシートの工夫)	★調べたこと気付いたことを 表現することができる。(思 考・表現) 発表・自己評価 ○互いの指摘や新たな疑問・ 興味をもとに新たな活動・ 体験をさせる。 ◎もっと詳しく調べたり (3 回目の探検；地域の方を各 グループに招待し【5名】 話しをしてもらうなど) まとめたり繰り返しの活動 や体験をさせる。 ★新たなめあてをもって、調 べようとしている。 (関・意・態) 行動観察・自己評価	仮説(1)ー① ② ■単元構成の 工夫 ◎教師の支援
15 16 17 18	なぜ、つな の長さがち がうのかな	■もっとくわしくしらべよう たんけん3 (2) ・手直し・修正の計画を立てる。① (課題を確認し、調べ方を考えさせる) ・もっと調べてみたいことを聞いたり調 べたりする。② Aかすり「かすりの糸は何でできている のかな」 B本部公園「困っていることは何だろう」 A綱引き「なぜ、綱の長さがちがうのかな」 B壕「つるはしってどんな道具かな」 石獅子「獅子は、おす・めすあるのかな」 かぼちゃ「どのように水をかけるの？」 太陽の町「名前の由来(願い)は？」	★調べたこと気付いたことを 表現することができる。(思 考・表現) 発表・自己評価 ○互いの指摘や新たな疑問・ 興味をもとに新たな活動・ 体験をさせる。 ◎もっと詳しく調べたり (3 回目の探検；地域の方を各 グループに招待し【5名】 話しをしてもらうなど) まとめたり繰り返しの活動 や体験をさせる。 ★新たなめあてをもって、調 べようとしている。 (関・意・態) 行動観察・自己評価	仮説(1)ー① ② ■単元構成の 工夫 ◎教師の支援
19 20 21 22 23 24	わかりやす く絵でか いてみよう ゆうぐのしゃ しんをはって 地図を作っ てみよう	しょうなんじまん大会のじゅんぴを しよう (5) ・探検して分かったこと気付いたことを どんな表現方法で発表するか相談して 決める。① ・グループで協力してまとめ、発表の準備 や練習をする。(4) (準備②練習③リハーサル④手直し⑤)	◎調べたことがみんなによく 伝わるように、それぞれの 内容にあった表現方法を工 夫させる。(実物を見せたり、 参考例を示す)【例：ペー サート・紙芝居・壁新聞・ 絵・クイズ】 ○練習をさせたりリハーサル をさせたりして表現の仕方 を支援する(時間を十分取 る)。 ★自慢を進んで紹介しようと している。(関・意・態) 行動観察・自己評価	仮説(1)ー② ◎教師の支援
25 本時	〇〇へいっ てみたい	しょうなんじまん大会をしよう (2) ・自慢を発表する。① かすり「綱糸ってカイコからとるんだ」 太陽の町「仕事の訓練をしているんだね」 綱引き「あがりの綱は長いよ」 石獅子「まよけなんだ」 ・自分のよさや友達のよさを発表する。 (内容と表現方法についての感想) ・自慢を発表する。② 本部公園「5つの遊具があるよ」 かぼちゃ「かぼちゃが10トンとれるよ」 壕「壕の長さは70メートルなんだ」 ・自分のよさや友達のよさを発表する。 (内容と表現方法についての感想)	◎自信をもって発表できるよ うに雰囲気づくりをする。 各自の役割が果たせるよ うに支援する。 ○保護者・地域の方・校長先 生など自慢大会に参加して もらう。 ○これまでの取り組みを賞賛 し、今後の活動への意欲を 高める。 ○一人一人のがんばりを賞賛 する。 ★調べたこと気付いたことを 工夫して表現できる。(思考 ・表現) 発表・自己評価 ★地域や友達のよさに気付く。 (気付き) 発表・自己評価	仮説(1)ー② ◎教師の支援 仮説(2) 表現活動
26 27	「〇〇グル ープの絵はく わしくかけ ていました。」	おれいの手紙をかこう (国語1) ・お世話になった方へお礼の手紙を書く。	○感謝の気持ちで書かせる。	

(2) 評価計画 (省略)

5 本時の学習 (25/27時間)

(1) 活動名 「しょうなんじまん大会をしよう」

(2) 本時のねらい

- ① 支部の自慢について調べて分かったことなどを、自分なりの方法で表現することができる。
- ② 地域のよさ、友達のよさに気付くことができる。

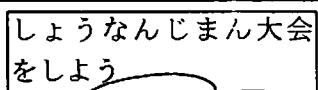
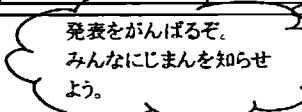
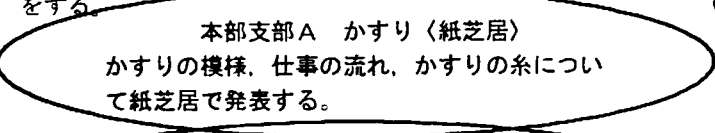
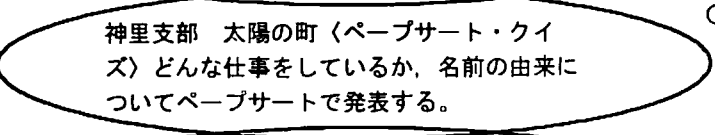
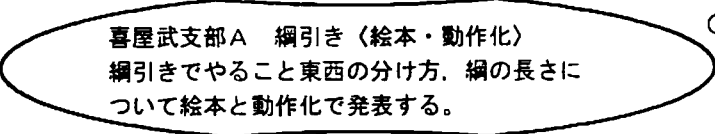
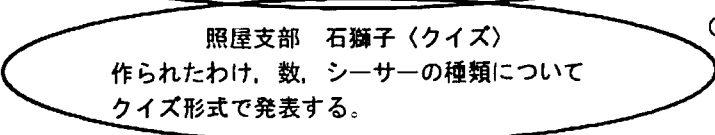
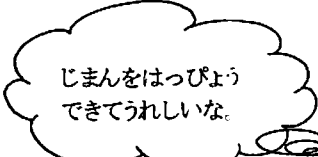
(3) 本時の授業仮説

- ① 児童の思いや願いを生かした表現活動を取り入れれば、地域のよさや友達のよさに気付くことができるであろう。
- ② 個に応じた支援を行えば、意欲的に発表できるであろう。

(4) 準備

児童：発表に使うもの（紙芝居、絵、クイズ等）教師：めあてカード、ラジカセ等

(5) 展開の実際

	主な活動と意識の流れ	○教師の支援☆個への手だて■授業仮説の検証◇本時の評価
つかむ	1, 本時のめあてを確認する。 	○めあてを確認させ、自慢大会への意欲をもたせる。 ○地域の方を招待し、学習の楽しさや翔南校区の自慢を伝えることで発表の意欲をもたせる。
		○聞く時の視点や発表の仕方、資料の提示の仕方を確認する。 ○友達の良かったところや新たに分かったことなどの感想を述べたりすることを確認する。 ☆一人一人の発表がうまく表現できるように支援する。
活動する	2, 自慢大会の進め方を確認する。	
	3, 「しょうなんじまん大会」をする 	○身近な人がかすりを作っている・南星中の制服にもかすりのポイントがあることを知り、より親しみをもってかかわっていたことを紹介する。
		○障害をもつ人も同じ地域に住み、自分たちと同じように生活していることを感じ、困っている人を手助けしたいという気持ちが見られたことを賞賛する。
		○詳しく知ることにより、喜屋武の綱引きの特徴をしっかりと捉えていたことや本番の綱引きを期待していることを紹介する。
振り返る		○地域の方から詳しく話を聞くことで満足し地域の方とのかかわりを嬉しく感じていたことを紹介する。
	4, 感想を発表する 	◇調べたこと気付いたことを自分なりに表現することができる。 【思考・表現】(作品・発表・行動観察) ■個に応じた支援をし、意欲的に発表することができたか(観察・自己評価) ○お世話になった方の話(賞賛)を聞き、活動を振り返らせることにより成就感をもたせる。 ○感想を述べる場を設け、自分の頑張ったことや友達のよさにも気付かせ、成就感をもたせる。 ◇地域や友達のよさに気付くことができる。【気付き】(発表・ワークシート) ■地域や友達のよさに気付くことができたか。(発言・ワークシート)
	5, 教師の話聞く。	○感想を述べた子や児童の頑張りを賞賛し、今後の活動への意欲を高める。

6 授業仮説の検証

授業仮説について授業者と観察者から見た評価と児童のワークシート、自己評価から学級全体を基に考察する。

表6 学級全体の評価(学級人数30人)

観 点	評 価	A 十分満足できる	B 概ね満足できる	C 努力を要する
・地域のおよや友達のよさに気付くことができたか。	方 観 察	93%(27人)	7%(3人)	0
	法 ワークシート	100%(30人)	0	0
	方 自己 上手	97%(28人)	3%(2人)	0
・意欲的に発表できたか。	法 評価	53%(16人)	40%(12人)	7%(2人)
	方 上手 協力	67%(20人)	33%(10人)	0
	法 評価	67%(20人)	33%(10人)	0

(1) 地域のおよや友だちのよさに気付くことができたか

授業者と観察者の観察の結果から「地域のおよや友達のよさに気付くことができたか」の観点に対し、93%の児童が「十分満足できる」、また7%の児童が「概ね満足できる」という評価だった。全員が「よさに気付くことができた」ことが分かる。また、資料1発表内容やワークシートの記述から全員が「友達のよさ」に気付いていた。発表グループが詳しく調べて、分かりやすく説明していたことが伺える。発表の仕方から友達のよさを発見しがちであることから、よさ探しの視点をしっかり押さえ、発表内容にも「地域のおよ」を気付かせる教師の支援の工夫が必要である。

- ・クイズを通して内容が分かりやすかった。
- ・かけ声が上手だった。
- ・かすりの長さ(実際の長さを紙(ロール紙)で再現していたので)が分かりやすかった。
- ・かぼちゃんには、お父さん・お母さんの花があることが分かった。すごいなと思った。
- ・えびすという種類を初めて知った。いろいろなことを調べたんだな。

資料1 発表内容やワークシートの記述

(2) 意欲的に発表できたか

授業者と観察者の観察の結果、97%の児童が「十分満足できる」、3%の児童が「概ね満足できる」と、合わせて児童全員が意欲的に発表していたと評価している。また、図2の自己評価で「みんなの前で上手に発表できたか」の質問に対し、「よくできた」が53%、また「まあまあできた」が40%で合わせて93%の児童が「上手に発表できた」と自己評価している。「グループで協力することができたか」という質問に対しては「よくできた」が67%「まあまあできた」が33%の児童が答えており、全員が「協力できた」ことが分かる。発表場面での教師の「個に応じた支援」は児童に自信をもたせ、意欲的に発表させることができたといえる。

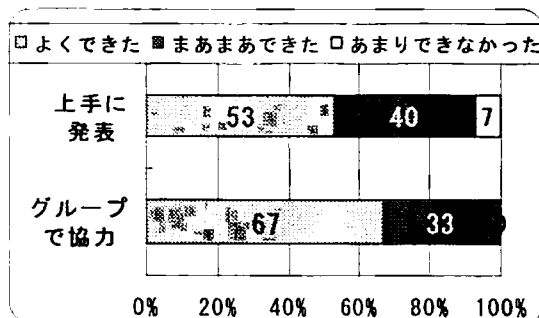


図2 授業後の自己評価(30人)

よさに気付く
ことができた
→93%

全員が意欲的
に発表

「個に応じた
支援」は児童
に自信をもた
せる

V 研究の考察

研究仮説の考察は、児童のワークシートやアンケート、自己評価を基に行う。自己評価は、よくできた(3点)まあまあできた(2点)あまりできなかった(1点)の3件法で、学級平均から検証する。

1 児童の思いや願いを生かす単元構成や支援の工夫をすることによって、生き生きと活動させることができたか

活動意欲が高まる

(1) 児童の思いや願いを生かす単元構成の工夫について

単元構成の工夫として、探検活動3回、発表会2回（ミニ自慢大会と翔南自慢大会）を行った。その結果を以下に示す。

① 探検活動を3回実施

1回目から3回目の探検活動後の自己評価の学級平均（図3）をみると、「今日の学習は楽しかったか」という質問に対し、0.13の上昇。また、「いろいろ発見することができたか」という質問に対しては、0.77の上昇が見られた。探検の回数を増やすごとに楽しい活動になり、新しい発見をすることができたことが分かる。しかし、「進んで大きな声で質問することができたか」の質問に対して、自己評価が落ちている。活動する場所（探検2は校外、探検3は室内）の違いが要因であると思われる。

また、資料2児童の感想からも、2回目の探検よりさらに活動意欲が高まり新たな気付きへとつながったことが伺える

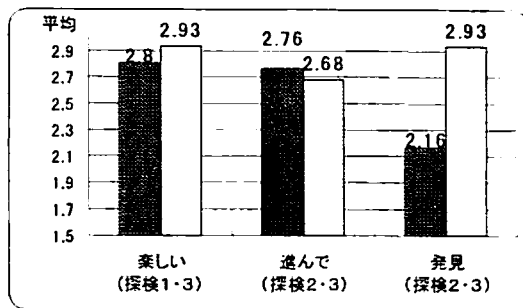


図3 探検後の自己評価（30人）

- いっぱい教えてもらって嬉しかった。
- 壕の長さが70Mと初めて知った。
- 前よりよく分かって楽しかった。あと1回やりたい。
- かすりのことをいろいろ聞いた。次も教えてもらいたい。
- かぼちゃの種をもらって嬉しかった。1つの種から3個のかぼちゃがとれると初めて知った。
- いろいろなことが分かった。カボチャの種類が2つあって驚いた。

資料2 3回目の探検後の感想

② 発表会を2回実施（ミニ自慢大会と翔南自慢大会〈本番〉）

ミニ自慢大会（15・16時）と翔南自慢大会〈本番〉（25・26時）の授業終了後の自己評価（図4）を基に考察する。「進んで準備や練習ができたか」の質問では0.03、「グループで協力することができたか」の質問では0.3、「上手に発表したり友達の発表をしっかりと聞いたりすることができたか」の質問では0.21の上昇が見られた。2回目の発表会では、自慢を分かりやすく伝えたいとグループで協力していることが読み取れる。資料3は、ミニ自慢大会で出された改善点と翔南自慢大会での発表内容の深まりである。発表の機会を2度設けたことで、一人一人の活動のまとめや発表内容を充実させることができた。また、ミニ自慢大会後もう一度調べようと3回目の探検への意欲が高まった。発表会を2回実施し繰り返しかかわり調べることにより思考や気付きが深まり、興味・関心が広まっていったことが分かる。

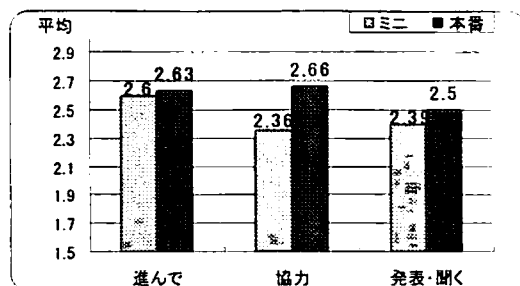


図4 ミニ自慢大会・翔南自慢大会

〈本番〉授業後の自己評価（30人）

思考や気付きの深まり

〈ミニ自慢大会で出された改善点（質問）〉

- ・10トンってどれくらいなんだろう。（かぼちゃ）
- ・どうやって水をかけるのかな。（かぼちゃ）
- ・「太陽の町」の名前の由来は？
- ・石獅子には、おす・めすがあるのかな。
- ・かすりの糸は、何からできているの？
- ・引っ張る小さい綱は何本かな。

〈翔南自慢大会での発表内容の深まり〉

- ・トラック20台分ある。
- ・ホースで歩き回ってかける。1時間に200本にかけられる。
- ・明るいイメージにするため。
- ・おす・めすはない。
- ・絹糸（カイコが出す糸）と木綿（木綿の木からとれる花）がある。
- ・あがり（東）が300本、いり（西）が15本ある。

資料3 改善点と発表内容の深まり

ミニ自慢大会をすることによって、自分たちの調べたことが確かなものになり新たな疑問を持つ機会となった。自分たちの支部自慢を分かりやすく伝えたいという願いから、もっと詳しく調べたい聞いてみたいと思いや願いが広がり、活動意欲が高まっただけでなく質問の仕方やメモの取り方等取材の仕方でも学習していくことができた。

(2) 思いや願いを生かす支援の工夫について

単元構成を3つの段階（出会う・働きかける・深める）に分けて捉え、それぞれ教師の支援について検証する。

① 出会う《支部の自慢を見つけよう》(1・2時)

地域の写真を見せ場所当てクイズをしたり、自分の支部の自慢を発表させたりと探検への意欲を高める支援を行った。資料4 児童の発表と感想から、児童は地域探検への興味をもち、かなり期待していることが伺える。

〈S君〉

○自慢の発表7つ（シーサー公園など）

☆ガジュマルが並んでいる林にもう一度行ってみたい。

☆シーサー公園でシーサーをつけてみたい。

〈Mさん〉

(○発表内容☆感想)

○自慢の発表3つ（児童館など）

☆本部公園へ行ってみたい。

☆神里のふれあい公園へ行ってみたい。

② 働きかける(3～18時)

資料4 児童の発表と感想

ア 探検2の計画を立てよう(8・9時)

知りたいこと調べたいこと(課題)の視点を提示して、支部の自慢について課題(質問)を考えさせる支援を行った。児童の自己評価(図5)から「知りたいこと調べたいことを進んで考えたか」という質問に対し、「よく考えた」と答えたのが60%、「考えた」と答えたのが40%であった。全員が視点を基に課題を考えることができたことが分かる。

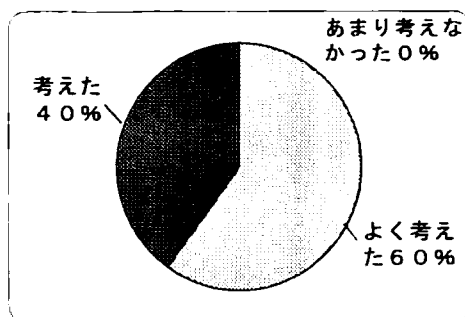


図5 自己評価「知りたいこと調べたいことを進んで考えたか」(30人)

また、資料5 壕のグループの課題と児童の感想から、「何を課題にすれば自慢といえるのか」と視点を基について課題を考えることができたといえる。視点を基にした課題作りはこれから継続して取り組み、総合的な学習へとつなげていきたい。

視点①いつ②誰が③どんなことを(何を)

④どのようにして⑤なぜ

〈壕のグループの課題〉

☆壕はいつ作られたか。

☆誰が作ったのか。

☆壕の中では何をしていたか。

☆どのようにして作ったのか。

☆なぜ作られたのか。

〈児童の感想〉

○質問がたくさん考えられてよかった。この質問に答えてくれるかな。

○グループで同じ質問を考えていた人がいた。

○少し難しかったが、頑張って質問を考えることができた。

○考えるのは大変だったけど、この質問に分かりやすく答えてくれるかな。

○いっぱい考えることができた。

資料5 課題作りの視点、壕グループの課題と児童の感想

イ ミニ自慢大会(15・16時)

発表内容について互いのよさや改善点を確かめさせるために、話型を提示しワークシートを工夫した。よさを認め児童が満足感を得るとともに、より意欲がもてるように支援を行った。児童の自己評価から「上手に発表したり友達の発表をしっかり聞いたりすることができたか」の質問に対し、「よくできた」と答えた児童が40%で「まあまあできた」と答えた児童が60%、全員が「できた」と自己評価している(図6)。しかし、「よくできた」と答えた児童が50%以下という結果だったのは、友達の発表を自分の問題として捉え、よさや改善点を考え発表する児童に限られた

支援→地域の
写真を見せる

支援→視点を
基にした課題
作り

「課題よく考
えた」→60%

支援→地域の
方に事前に協
力依頼、学習
ボランティア
を配置

よさを見つけてもらい満足

ことが原因だったと考えられる。今後は、視点を明確にして一人一人の児童が考えをもちやすくする支援の工夫が必要である。

また、資料6児童の発表と感想から、話型に沿って分かるように発表したり友達の発表をしっかりと聞いてよさやもっと詳しく聞いてみたいこと（改善点）を確かめ合うことができたといえる。また、発表することで調べたこと分かったことが意識化され、自分とは違う友達の見方や感じ方・友達のよさに気づいていた。よさを見つけてもらい満足した様子が見られた。

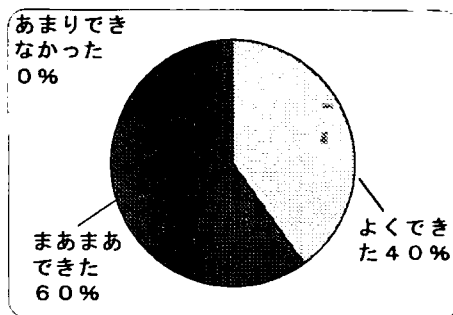


図6 自己評価（上手に発表したり友達の発表をしっかりと聞いたりすることができたか）（30人）

〈よさや改善点の発表〉綱引きグループ

○よさ ☆改善点

- 綱の上でやるのはけんかではないと初めて知った。
- 東と西の綱の長さが違うということに驚いた。
- 綱は喜屋武の人みんなで作ると初めて知った
- ☆引っ張る小さい綱は何本あるのかな。
- ☆なぜ、綱の長さが違うのかな。

〈授業後の感想〉

- ・大きな声で発表できて嬉しかった。
- ・質問（改善点・もっと聞きたいこと）ができた。
- ・良いところが2つ見つけられた。
- ・聞くのを頑張ったよ。

資料6 児童の発表と感想

ウ 探検3（17・18時）

もっと詳しく調べたり話を聞いたりする活動をさせるために、地域の方を招待し、各グループ一人一人とかわわることができるよう支援した。児童の自己評価から、「今日の学習は楽しかったか」「聞いたことをメモすることができたか」という質問に対して、「とても楽しかった・よくできた」と答えた児童が90%、「まあまあ楽しかった・まあまあできた」と答えた児童が10%であった（図7）。児童全員が楽しんで活動し、聞いてメモする時間的ゆとりが十分あり、充実した活動であったことが分かる。考えていた質問以外のことも説明してもらい、実物や資料なども用意されていて、児童は目を輝かせて聞いていた。また、資料7児童の感想から、一人一人が自慢について詳しく知ることができ満足していた様子が伺える。

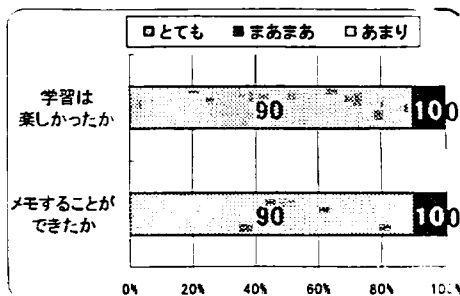


図7 探検3後の自己評価（30人）

- いっぱい教えてもらえて嬉しかった。
- かすりを見せて、いっぱい教えてくれ楽しかった。
- この前より詳しく教えてもらっておもしろかった。
- 石獅子のことがいろいろ分かって良かった。
- かぼちゃの種をもらって嬉しかった。
- いろいろな手話を教えてもらえたから楽しかった。

資料7 児童の感想

③ 深める（25～27時）《翔南自慢大会をしよう》（25・26時）

地域の方を招待し賞賛してもらうことで成就感をもたせる、保護者に発表を見てもらい意欲をもたせる支援を行った。また、発表時には、意欲的に発表できるよう個に応じた支援を行った。児童の自己評価（図8）から、「上手に発表することができたか」の質問に対して、「よくできた」と答えた児童が53%で、「まあまあできた」と答えた児童が40%であった。93%の児童が「上手に発表できた」と自己評価している。お世話になった地域の方や保護者に参観してもらうことで、成就感を味わうことがで

支援→話型提示、ワークシート工夫

より詳しく知ることができた

支援→地域の方招待、保護者参観

相手意識を持ち発表→成就感味わう

きたことが分かる。また、資料8児童の感想から、一人一人自慢をみんなに発表しようと意欲的に頑張っていたことが分かる。

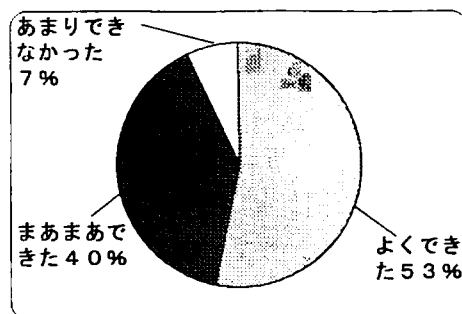


図8 授業後の自己評価〈上手に発表することができたか〉(30人)

(児童の感想)

- かけ声を大きな声で言えた。劇もちゃんとできて良かった。
- 自分のクイズを大きな声で言うのを頑張った。
- 恥ずかしかったけど、しっかり発表できたので嬉しかった。
- 手話がきちんとできた。
- いろいろなことをみんなに教えられて良かった。
- 紙芝居で自分の言うところが長かったけど、覚えていたので良かった。

(保護者の感想)

- 自分から話しかけたり発表したりすることが苦手な子ですが、自慢大会をきっかけに少しは自信もつき、発表する意欲が出てきたと思います。とても良い経験ですのでこれからも続けてほしいです。
- 私も初めて知ることが多く、とても勉強になりました。発表も子供たちなりに一生懸命で、とても微笑ましく思いました。

資料8 児童と保護者の感想

以上のことから、児童の思いや願いを生かす単元構成や支援の工夫をすることによって、生き生きと活動させることができたといえる。

意欲的に発表

2 発表場面における表現活動の工夫をすることによって、生き生きと活動させることができたか

いろいろな表現方法で楽しかった、内容分かりやすい

単元終了後のアンケート(図9)から、「いろいろな方法で発表して楽しかったか」という質問に対して、「とても楽しかった」が64%で、「まあまあ楽しかった」が33%であった。合わせて97%の児童が「楽しかった」と答えている。また、「いろいろな方法で発表して分かりやすかったか」という質問に対して、「とても分かりやすかった」が67%で、「まあまあ分かりやすかった」が30%であった。合わせて97%の児童が「分かりやすかった」と答えている。自分達の支部自慢に対する思いや気持ちを楽しく表現することができ、発表内容も分かりやすかったことが伺える。また、資料9児童の記述から、成就感や達成感と次の発表への期待・意欲が見られた。本時の授業仮説の検証(2)の結果からも、一人一人しっかりと役目を果たし、思いを伝えることができたことが分かる。

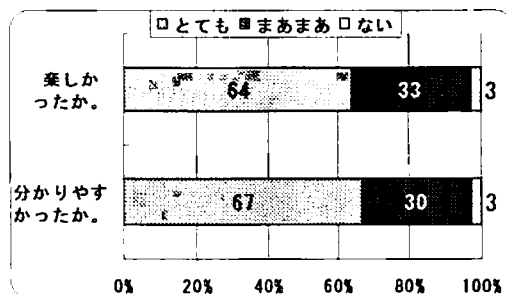


図9 単元終了後のアンケート(30人)

- 紙芝居のやり方が分かった。ほかの方法もやってみたい。
- 劇で綱引きをしたのが楽しかった。
- 次は、絵本を作ってみたい。
- 絵本や劇で発表していたので綱引きのことがよく分かった。
- いろいろ分かりやく聞きやすかった。
- クイズで発表してみたい。

資料9 児童の記述

次の活動への期待・意欲

以上のことから、発表場面における表現活動の工夫をすることによって、生き生きと活動させることができたといえる。

3 思いや願いを生かす単元構成と支援の工夫や発表場面における表現活動を工夫することは、児童が生き生きと活動するのに有効であったか

「支部自慢」に親しみ

単元前後のアンケートでは、「自分の住んでいるところが好き」と100%の児童が答えている。また、資料10「あなたの住んでいる支部のどんなところが好きか」の質問に対し、単元後では、「支部自慢」でかかわることができた地域の「場所・もの・こと」が挙げられた。また、「地域の方に教えてもらってどうだったか」という質問に対しては、「いろい

る教えてもらったので嬉しかった。」「かぼちゃの種や実をもらったり、本や資料を持ってきて詳しく教えてもらったりして楽しかった。」という感想があった。「探検学習を終えてやってみたいこと行ってみたいところはあるか」という質問に対して、地域探検でかかわることができた他の支部自慢にも関心を持つようになったことが分かる。

以上のことから、これまで気付かなかった地域の人々や自然、文化に直接触れ親しみをもつ児童が増えたことが伺える。

あなたの住んでいる支部のどんなところが好きですか

単 元 前	単 元 後
・友達を遊べる	・公園がある
・友達、祖父母、いとこの家が近い	・公民館が近い
・近くに公園がある	・友達がいっぱいいる
・静かで車が少ない	☆本部公園がある
・遊ぶ場が多い	☆かぼちゃ畑が近い
	☆喜屋武の綱引きがある
	☆めーみち広場が近い

探検の学習を終えてやってみたいこと行ってみたいところはありますか

やってみたいこと	行ってみたいところ
・喜屋武の綱引き	・壕の中
・かぼちゃの花を見たい	・照屋の石獅子
・かすりを作ってみたい	・かぼちゃ畑（山川）
・かぼちゃがどれくらい重いか持ってみたい	・本部公園でがんやをみたい
・かぼちゃを育ててみたい	・喜屋武の綱引き
・かすりを調べてみたい	

資料10 単元前後のアンケート

「地域探検活動」において、児童の思いや願いを生かす単元構成と支援の工夫や発表場面における表現活動の工夫を行ってきた。これまで述べてきた考察（V-1, 2, 3）から、地域に親しみをもち生き生きと活動させるのには有効であったといえる。

VI 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- (1) 単元構成の工夫として探検活動3回、発表会2回を実施することによって、児童が地域に十分かかわることができ、地域への気付きが深まった（V-1）。
- (2) 発表会で支部の自慢を伝えるために表現方法を工夫することによって、児童は楽しく意欲的に活動し、新たな気付きへとつながった（V-2）。
- (3) 「地域探検活動」を通して、地域の人々・自然・文化に対して関心をもたせることができ、地域に親しみをもつ児童が増えた（V-3）。

2 今後の課題

- (1) 発表場面において、「地域のよさ友達のよさ」の視点を明確にし、「よさ」に気付かせる支援の工夫と継続指導（IV-6 (1)）。
- (2) 知りたいこと調べたいこと（課題）を考える場面で、視点を基にした課題づくり継続指導（V-1 (2)②ア）。
- (3) ミニ自慢大会の場面において、内容の「よさや改善点」の視点を明確にし、児童一人一人に考えを持ちやすくさせる支援の工夫（V-1 (2)②イ）。

〈主な参考文献〉

- 文部省 『小学校学習指導要領解説 生活編』 日本文教出版株式会社 1999
- 嶋野道弘 『小学校生活科・総合的な学習 基礎・基本と学習指導の実際』 東洋館出版社 2002
- 嶋野道弘・中野重人 『新しい学力観に立つ授業展開のポイント 生活科』 東洋館出版社 1994
- 中野重人・谷川彰英・無藤隆 『生活科事典』 東京書籍 1996
- 石橋 格 『生き生きと活動する子どもを育てる生活科学習指導』 飯塚市教育研究所 研究報告 1996